

上杉文華館 目録
2022年7月28日（木）～8月23日（火）
関東管領上杉氏⑤～伊豆守護

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 <small>うえすぎほん</small> 洛中洛外図屏風 <small>らくちゅうらくがいずびょうぶ</small>	六曲一双	各178. 1×383. 2	原本	室町～桃山 (16世紀)	狩野永徳 上杉博物館
国宝 上杉家文書 細川頼之奉書 <small>ほそかわよりゆきほうしょ</small>	一通	3 4.2×5 4.6	応安2年 (1369)	10月3日	上杉博物館 文878
国宝 上杉家文書 足利義満御判御教書 <small>あしかがよしみつごほんのみぎょうしょ</small>	一通	4 4.5×5 5.0	応永2年 (1395)	7月24日	上杉博物館 文720
国宝 上杉家文書 斯波義将奉書 <small>しばよしゆきほうしょ</small>	一通	3 0.0×4 9.0	応永3年 (1396)	7月23日	上杉博物館 文871
国宝 上杉家文書 上杉能憲讓状 <small>うえすぎよしのりゆずりじょう</small>	一通	3 0.9×4 5.3	永和4年 (1378)	4月11日	上杉博物館 文730

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り返しました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第5回目は、「伊豆守護」をテーマとして関連文書を紹介します。上杉憲顕の没後の関東管領を継いだ上杉能憲は、伊豆守護に就任しました。能憲は宅間上杉氏を継いでいましたが、憲顕の実子でした。この伊豆守護職は、能憲の没後、山内上杉氏の家督を継いだ弟の憲方に継承されました。能憲は、山内上杉氏を離れていましたが、自らの所領を憲方に譲り、さらに憲顕没後、別の弟憲春に継承されていた上野守護を憲方に継承させる遺言を残すなど、山内上杉氏の相続に大きな力を発揮し、その基盤形成に大きな役割を果たしました。伊豆もまた、山内上杉氏の重要な基盤の一つになっていきました。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（複製）も展示します。1995年制作の複製で、制作当時の状況を想定したものです。